

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2013年06月 | トップ | 2013年08月 》

検索

2013年07月28日(日)

検索

『原発を拒み続けた和歌山の記録』が受賞しました！

アーカイブ

「脱原発わかやま」編集委員会編・汐見文隆監修(寿郎社発行)の『原発を拒み続けた和歌山の記録』が地方出版文化功労賞の奨励賞に選ばれました。この賞は、地方で出版された地方色のある優秀な作品に贈られるもので、主催は「ブックインとっとり」(会長:小谷寛)。http://www.bookin-tottori.co.jp/(また読売新聞も記事にしています。http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tottori/news/20130725-OYT8T00020.htm?from=tw)

詳しくはこのサイトにありますが、1988年以来今年で26回を迎え、全国(鳥取県と東京23区を除く)から応募のあった約650点を対象に、展示会で鳥取県民が投票し、審査員の最終審査によって受賞作を決定するというユニークなもので、地方の出版文化に光をあてその発展への貢献が全国からも高く評価されているそうです。主催は書店、図書館、県など関係団体の実行委員会ですが、名誉会長に県知事、副会長に県下各市長や商工会議所会頭が名を連ねています。鳥取県も粋なことをやってくれますね。ちなみに今年の最高賞の功労賞は、『北の無人駅から』 渡辺一史・著、北海道新聞社・発行、です。

さて『原発を拒み…』の奨励賞選考理由はつぎのようにのべられています。

昭和42年に始まり、平成2年におおむねの終結となった和歌山県内での原子力発電所設置の動きとそれに反対し、終結へと導いた住民をはじめとした関係者の活動をまとめた記録集である。他の県でも(鳥取県でも)こうした原発の計画とそれを阻止した住民の活動はあるが、その多くは、だれもが手に取りやすい整理された形での記録としては残されていない。この本のあとがきにも『和歌山県に原発計画があったのですか?』。多くの人から聞く言葉だ。県外だけではない。県内の人からも聞く。若者だけではなく年配者からも聞く。よくは知らない、忘れてしまったという人も多くなった。」と記されている。そんな中で東日本大震災と福島第1原発事故が、それまでの記録として残したいという関係者の気持ちを後押しして、この本が出来上がった。第1章ではそれぞれの町に起こった原発設置と反対運動が多くの関係者の表と裏の状況や動きを克明に再現していく。町長や議会、電力会社、漁協、住民、理論面での協力者、支援者、国等々多くの関係者の動きは決して単純ではなく、複雑に絡み合い変化していく。特にこの中で漁協の動きは複雑だが大きな意味を持ち、その臨場感とともに強く印象付けられる。第2章では理論的な面での指導者(協力者)と実際の運動を担った人たちにスポットが当てられ、どのように反対運動が行われたかが明らかにされる。ここでは女性の活動とその思いにページを割いているが、こうした部分こそ失われることのないように記録を残したいところと史料する。また、スリーマイルとチェルノブイリの事故が大きな影響を与え、薄氷を踏む思いの結果であったことも両章で明らかにされている。審査では記述のダブリや今という時期に書かれたことによる影響が感じられる部分もあること、「今だからこそ必要な本」と「なぜ今なのか」「今ならもう少し相手方のことがかけたのではないか」という議論などがあつた。しかし和歌山県という地域にとっての長く大きな出来事を後世に残すための大切な記録であり、日本の原発を考える上での貴重な資料でもある本が著者・編者の努力とともに地方の小出版社から出版されたことが評価された。(下線:筆者)

私たちのブログでも本書について取り上げました(昨年5月12日など)が、この辺鄙な和歌山に原発がないのは、立地候補地の人々が中心となって「お上に立てつき」薄氷を踏む攻防を経て勝ち取った結果です。一方で地域の人々の間に深い溝を作ってしまったという禍根は残りました。しかし、長年月を経過した今だから、そして福島原発事故の起きた今だからこそ、ようやく声を大に出来たのだという関係者の証言があります。対立していた人々たちから「こんなこと(福島の惨状)になるとあの時わかっていたんだな」と言われたそうです。

それが「なぜ今なのか」の理由なのでしょう。本書が地方出版文化功労の賞をいただくということは、まことに光栄でありがたいことです。1人でも多くの方が目に留めて脱原発の思いを共有していただければいいと思います。本書が、和歌山という地方で原発を拒んできた闘いの単なる回顧録としてではなく、原発を止める事が可能だと云うアピールになれば幸いです。今だからこそ。

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

(sora)

2012年09月(2)
 2012年08月(2)
 2012年07月(4)
 2012年06月(4)
 2012年05月(3)
 2012年04月(1)
 2012年03月(1)

2013-07-28 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2013年07月21日(日)

原発がこわい女たちの会ニュース85号発行

7月15日、「原発がこわい女たちの会ニュース」85号を発行しました。内容は以下の通りです。このうち既にブログに載せたものを除いてご紹介します。

【CONTENTS】

福島原発事故から2年4ヶ月が過ぎました
 原発事故と今の福島
 大阪地方裁判所宛陳述書
 報告：上記大飯原発3.4号運転停止行政訴訟
 福島県県民健康管理調査
 「風力発電の不都合な真実」著者・武田恵世氏のお話を聞きました
 報告：「脱原発わかやま」総会開催(at.田辺市)。その他
 後記

■ 福島原発事故から2年4ヶ月が過ぎました

原発を動かすことは止めて下さい。
 7月3日、全国で唯一稼働中の閉電の大飯原発3.4号機について原子力規制委員会は9月まで運転継続を了承しました。
 7月8日に施行の原発の新しい規制基準に照らして「直ちに安全上重大な問題が生じるものではない」と判断した、と報道されました。新規規制基準では活断層の真上に重要施設を設置する事を禁止しています。
 大飯原発3.4号機に冷却用海水を送る重要施設「非常用取水路」の真下を横切る断層「F-6破砕帯」が活断層かどうか問われていました。この問題に蓋をして「直ちに安全上重大な問題がない」といわれても私たちは原発事故の不安と原子力規制委員会に対しての不信任でいっぱいです。



■ 福島県 県民健康管理調査(6月5日検討委員会で報告)

事故時18歳以下だった子ども約36万人のうち2011年度と2012年度の一次検査実施済みの合計17万5499人のうち
 甲状腺がんで手術を受けた子どもは12人、疑いは15人と報告。
 (「県民健康管理調査『甲状腺検査』の実施状況について」(pdf) ②-11)
 しかし調査を担当している福島県立医大は、甲状腺がんと原発事故との関連性を否定しています。

詳しくは福島県のホームページに載っています。
<http://www.pref.fukushima.jp/imu/kenkoukanri/250605siryou2.pdf>

甲状腺は成長ホルモンをつかさどる所です。甲状腺の摘出手術を受けると、以後ずっとクスリを飲み続けなければなりません。なんとも苦しい話ですが、今後さらに増える事が考えられ心配です。

■ 6月2日『風力発電の不都合な真実』の著者・武田恵世氏のお話を聞きました

(この日の講演録DVDあります。希望者は松浦まで)
 私たちは原発に反対して来ましたが、そして自然エネルギーを使いたいと発言して来ましたが、風力発電はともクリーンなものとしてイメージして来ましたが、みなさんもそうだと思います。しかし、和歌山では2010年、既設の海南市下津で、住民に健康被害が出てきました。直接被害者の女性に話を聞きました。(彼女は自分の家から引越しました)2012年には由良町の風力発電による健康被害を知ることになりました。この事は女の会のニュースにも載せました。そして今年の3月の和歌山県議会でも取り上げられました。騒音もひどいが低周波音が健康被害を発生させています。これは日本だけではなく、世界的にも起こっている事がわかっています。が環境省はいま調査中と云う事で、事業者が対処するようになっていきます。
 武田さんも最初は風力に投資しようと思って調べ出したそうです。三重県の青山高原の風力発電は最初は観光スポットで、観光バスがたくさん来たそうです。全国的に調べれば調べるほど、とても投資できるものではない事が分かって「風力発電の不都合な真実」を書かれたそうです。
 2011年3・11福島の事故後、風力・太陽光等再生可能エネルギー全量買い取り制度が出来ました。それで風力発電の建設計画は和歌山にも目白押しです。(全国的に大型化です)
 風力発電の燃料はウランではなく風ですからクリーンですが結構な風が吹かなければ発電しないし、25メートル以上では止まります。風は気まぐれです。それが最大の難点です。その上、現在の風力の発電量がまだ電力系統が不安定にならない「誤差」の範囲でしかないのです。しかし全量買い取り金は私たちの電気料金に上乗せられ、私たちが払っています。使われなくても発電すれば私たちが買い取っているのです。しかし今後増えて来ると電力系統を不安定にするので、すでに北海道電力や東北電力が接続を切っているのと同じ様になると思います。
 電気は簡単のために扱ってはいけないのです。
 ○約3km以内の周辺住民に著しい健康被害を起している。
 ○約3kmより遠くの住民にもストロボ効果・景観の破壊など。
 ○自然環境に大きな影響を及ぼしている。*野鳥の激減・コウモリの大量死・野鳥の激突死、等。結局、何の役にも立っていないのに、著しい被害を及ぼしている。ここ20年程度で役立つようになる可能性はほぼない。今後20年以降に役立つようになる可能性も非常に低いと言わざるを得ない。今後、非常に高性能で安全で、安価な長寿命の蓄電池の開発や、白金などのレアメタルを使わずに室温で作動する

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)
 そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
 コメントありがとう by sora (12/05)
 突然すみません。東京 by 里美(11/22)
 10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)
 starさんコメントあり by sora (09/14)
 このブログを読むまで by star(09/13)
 こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
 現在稼働している大飯 by star(04/09)
 廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2013年07月 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13
 琵琶湖集会(11/15)
 汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
 原発がこわい女たちの会ニュース99号発行(10/12)
 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
 老朽原発・美浜3号機は廃炉に！ パブコメを出そう(08/28)
 ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
 熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
 老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
 原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

燃料電池が開発されれば可能性はあるかもしれないそうです。

風力発電は現在大型化し、和歌山県でも有田川町・広川町・日高川町にまたがる尾根に中紀ウインドファーム(企業エコパワー)は3000kw×30基の計画です。

■ **報告1** 5月22日 大飯原発3.4号運転停止行政訴訟第5回法廷で私は初めて陳述書(上)を読み上げました。裁判のあと「トーチシティホテル梅田」で、報告集会がありました。

7月1日 第6回法廷は今まで運転停止命令を求める法的根拠は電気事業法でしたが、新法によって根拠法が原子炉等規制法に変わりました。新基準になるため訴えが変わる部分と、新基準になっても訴えが変わらない部分を整理してまとめて提出することになりました。次回第9回法廷は9月25日です。



■ **報告2** 6月16日 「脱原発わかやま」総会が田辺市で開催。代表は冷水喜久夫さん(白浜町日置)。今まで事務局を汐見内科内にしていたが、今年度より事務局を田辺市あけぼの42-40 寺井拓也方に決まりました。当日の参加者は那智勝浦町2人。白浜町1人。田辺市8人。日高町1人。由良町1人。有田川町2人。岩出市1人。和歌山市3人。計19人でした。今年度は定期的に福島の子どもの健康相談に行かれている山崎知行医師に「福島の子どもたちの今」を報告して頂き、古田さんに福島県本宮市の橋柳子さんを訪ねた時のようすなどを話して頂きました。その上で「私たちには何が出来るのか」を話し合いました。それなりに議論があり、結論は出せませんでしたが、かつて原発阻止に参加していた人たちですから今後それぞれに具体的に取り組むことになるでしょう。国や県に対する要望書等は「脱原発わかやま」で提出しています。

■ **報告3** 今、日本で動いている原発は福井県の大飯3・4号の2基だけです。和歌山までの距離が一番近い和歌山市で135キロ位です。国は30%の避難計画にやっと手をつけたところです。7月になって広域連合から滋賀県の人たちが大阪と和歌山に避難する計画が示されました。7月3日に大飯3・4号の9月までの運転続行を了承した原子力規制委員会は最初のころ、活断層の問題では期待したのですが、活断層の話には蓋をして、自らを規制しました。この前の規制委員会の席で関西電力が規制委員に80回に及ぶ面談のお礼を言ったそうです。傍聴していたSさんは2カ月の間に80回も会うなんて恋人でも多いのではないかと、いったいどんな話をしたのか、議事録の情報公開を求めて行くと話していました。

5月24日(金)参議院議員会館で、風力発電の院内集会があり参加。帰りに経済産業省前の脱原発テント前に行って来ました。「国有地・関係者以外立ち入り禁止」の看板が所々にありましたが、国有地で誰のものかな。と思った。私と同じような年齢層の人が多かった。



<記> 今年は、セミが少し鳴き出したと思うと、直ぐ梅雨明け真夏の暑さになりました。福島の事故で、避難生活者が14万人以上。子どもの甲状腺がん手術が12名、でも再稼働、再稼働の動きです。福島原発事故の被害は何事もなかったようにしたいのです。福島第一原発の元吉田所長が食道がんで亡くなりました。福島の問題はこれからです。みなさん声を出しましょう。声を出さなければ、子どもたちが犠牲になります。だまされます。と自分に言い聞かせながらの毎日です。<女の会は>会費とカンパで成り立っています。今年の会費まだの人は納入して下さい。(松浦)

原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ

RSS

ID:

PASS:

サイト管理者 ▼

ログイン

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末
サービス終了します

2013-07-21 | 記事へ | コメント(0)

2013年07月11日(木)

関電の再稼働申請・今回も和歌山県知事へ要望書提出

「脱原発わかやま」から和歌山県知事への要望書提出も回を重ねます。

原発規制基準が8日に施行され、電力4社が、5原発10基の再稼働を求めて安全審査を申請しました。うち関西電力は、全国で唯一稼働している大飯3,4号と、MOX燃料で揺れる高浜3,4号の計4基。その安全性については、これまでも再三問題が指摘されてきたところです。が、原子力規制委員会は、敷地内破砕帯調査、免震事務棟などなど、新基準に適合していないにもかかわらず、「直ちに安全上重大な問題が生じるものではない」と、なし崩しに……？

安倍政権は、参議院選での勝利を当て込んで、再稼働に前のめり。破廉恥にも原発輸出を含めて原発推進を成長戦略に位置づけています。福島原発事故などまるでなかったかのよう。「原発事故で亡くなった人はいない」との自民党政調会長の発言もありました。

福島原発事故の原因も究明されないまま、そして原発の将来もまともに議論されないまま、再稼働に突入するのでしょうか。電力会社の経営上のリスク回避のために、私たちは生命と生活のリスクを背負われるのでしょうか。

新潟県の泉田知事は、柏崎刈羽原発の申請を企てた東電の社長に向かって「安全よりもお金を優先するのですね」と喝破しました(社長は、はい、とはさすがに言えなくてシドロモドロ)。原発の本質を捉えて、自治体首長として住民の側に立つというスタンスの明快な方だと思います。我らが知事も、せめて「現実的な防災計画・避難計画が策定されてない状況では再稼働には同意できない」と表明できる方であってほしいと願っています。(sora)

……… 以下、「脱原発わかやま」から和歌山県知事に提出した要望書です………

2013年7月9日

和歌山県知事 仁坂吉伸 殿

脱原発わかやま 代表 冷水喜久夫
事務局・田辺市あけぼの42-40 寺井拓也方
電話・FAX 0739-25-5586

大飯原発3・4号の運転停止と高浜原発3・4号の再稼働に関する 要望書

原子力規制委員会は、7月3日、大飯原発3・4号について、7月8日の新規規制基準施行後の運転継続を認めました。しかしながら、大飯原発3・4号は、以下のように新規規制基準に照らして全く適合していません。そのことを、規制委員会自身が認めながら「直ちに安全上重大な問題が生じるものではない」と認可したものです。ここで規制委員会が言う「直ちに」とは、大地震がしばらくは来ないだろうという、根拠のない楽観的な推論に基づくものであり、これこそがフクシマ事故を招いた安全神話に通ずるものです。

新規規制基準は、福島原発事故をふまえ、二度と過酷事故を起こさないという反省にたって制定されたはずですが、それゆえ、その適用は厳正になされなければなりません。そうでなければ、再び、大事故の危険性を招きかねません。仮に大事故が福井県で起これば、1400万人が飲料水に利用する琵琶湖の放射能汚染などにより関西圏は崩壊し、わが国全体も破局を迎えるに違いありません。

大飯原発3・4号をめぐっては、基準違反や安全上の問題がいくつもあります。まず、大飯原発の敷地内の破砕帯です。専門家から活断層であるとの強い指摘がされるなか、原子力規制委員会が目下調査中にもかかわらず、それを評価の対象外としました。

また、再稼働に必須とされる免震事務棟については現在建設中であり、完成予定が2015年度にもかかわらず、免震構造ではない会議室を代替施設にすることで認可しました。

また、事故時の制御棒挿入問題では、関電が出した挿入時間について、具体的な評価を行っていませんし、津波の評価についても、新基準が満たされていません。

さらに、地域防災計画についても、地元福井県をはじめ、周辺自治体の防災計画はほとんど整っていませんし、琵琶湖の飲料水問題もまったく見通しがたっていません。

同様に7月8日、関西電力が再稼働の申請をした高浜3・4号については、再稼働の条件である防潮堤がまだ完成していません。

以上のようにこれらの重要な問題が解決されないまま、新しい規制基準を無視して運転を継続させ、あるいは再稼働をさせることは無責任きわまりなく、到底許されるものではありません。私たち県民の生命と健康を守る立場にある和歌山県知事として、関西電力と原子力規制委員会に対して新規規制基準を厳守し、大飯原発3・4号の運転を直ちに停止すること、および高浜3・4号の再稼働を認めないよう要求して下さい。

以上

